

和田氏と親交の小林兄弟と竹内氏

レリーフ視察、顕彰会と意見交換

1964年の東京オリリンピック誘致に貢献した御坊市名誉市民第1号の和田勇氏と親交があった小林良廣氏(71)と東京都新宿区、(株)大塚代表取締役、小林榮氏(80)と大阪府枚方市、岡山大学勤務、竹内邦彦氏(79)と米国ロサンゼルス、元エンジニアの御坊市役所前の和田氏のレリーフを視察。3人は和田勇顕彰会員と市長室で意見交換もし、御坊を愛し、私利私欲のない人柄を紹介するなど和田氏を懐かしんだ。

同会が去る8月27日にJR新大阪駅で行った啓発活動で偶然通りかかった榮さんが声をかけたのをきっかけに連絡を取り合い、たまにたま、11日に3人でレリーフを見学する予定だったのを聞いた会員が和田氏の当時の話を聞かせてもらおうと、意見交換の場が実現。この日はレリーフ前で良

廣氏、榮氏、竹内氏の3人は柏木征夫御坊市長、顕彰会の川瀬和男副会長、阪本仁志副会長、岡本恒男事務局長、片山隆御坊寺内町会館長、御坊商工会議所の塩路泰弘専務理事と記念撮影。市長室で和田氏の当時の話題で盛り上がった。

良廣氏と榮氏は兄弟で、弟の良廣氏は和田氏とアメリカで知り合い、その後、師弟のような関係にまでなった人で「30年近い付き合いで、日本を愛し、御坊を愛した人だった。私利私欲なく、引き受けたら最後までやり通す人」と話し、竹内氏は「御坊で育ったことをよく話し、和田さんのルーツだった。ポーカー仲間、よく一緒にテンプルを囲んだ。釣りも好きで腕前も良かった」と紹介。榮氏は「和田さんにはお世話になってばかりで、大阪で顕彰事業を知り、まさかあ



竹内氏(右端)、榮氏(右から4人目)、良廣氏(右から6人目)が顕彰会関係者とレリーフ前で記念撮影

の和田さんの?と戻って、会員の方に声をかけさせてもらった。もっと全国的に広めてもらえたら、うれし」と話した。

連絡を取り合った岡本事務局長は「ぜひ会いたい方々で、奇跡的なことが重なり、今回の場が実現し、

うれしく思う。お話を聞いて、本で読んだイメージ通りの方がますます当時の和田氏に会いたい気持ちになった。顕彰活動をさらに頑張っていきたい」と述べた。この後、3人は寺内町会館の和田勇資料館も視察した。